２０２６年１１月１日発行

海匝・山武 男女共同参画だより

第14号

～ 地 域 で ひ ろ が る 笑 顔 の 輪 ～

「男女共同参画」とは、地域の一人一人がお互いを尊重し合い、笑顔で過ごせる社会を目指すもので、ごく身近にあるものです。「男女共同参画だより」では、千葉県男女共同参画地域推進員がそれぞれの地域で男女共同参画に携わるお仕事・活動をしている方々を取材し、紹介しています。

子どもに寄りそう保育者への道

山武市（諏訪富美江）

今回は、保育士としてご活躍されている加藤聖史さんを取材しました。

子どもたちに音楽を教えたいという思いから、保育の道を志し、養護施設での研修を通して子どもと関わる仕事への思いを強めたようです。

保育現場では、男性の保育士が少ない現状や更衣室等の職場環境の課題を感じる一方で、男性の保育士としての強みである、ダイナミックな遊びや、食育等の視点を活かし子どもたちの多様な成長を支えられることにやりがいを感じているとの事でした。

加藤さんを中心とした園内での野菜の栽培も、子どもたちから楽しい声と、苦手な野菜が、大好きになった子どもたちが何人もいると、熱い思いを語ってくれました。「保育は女性の仕事というイメージをなくし、子育てを社会全体で支える意識を広げる事が大切です。」と優しい眼差しで語っていただきました。

将来、男性で保育士を目指す人には、「自分の思い」を大切にして挑戦して欲しいと、エールを送ってくれました。

幼い頃からピアノを習っていた加藤さんからは、大きな優しさと慈愛に満ちた笑顔が溢れていました。

大変明るく元気でパワフルな加藤聖史さん、益々のご活躍を期待しています。

保育士 加藤聖史さん　諏訪富美江推進員

強くしなやかに生きる：東金市長　山下美紀

東金市（嘉瀬恵理子）

東金市 山下美紀市長

今回のお話では、「自己決定」と「自己実現」が一貫したテーマとして語られました。山下市長は教育の現場でキャリアを築く中、性別を意識せず、一人の人間として自分のやりたいことを大切にしてこられたといいます。

一方で、家事や育児、介護などを担う人が自由に選択できる環境づくりには、今なお課題があり、互いに対話を重ね、支え合うことの重要性についても話されました。

また、福沢諭吉の「独立自尊」に触れ、「何をしたいか」ではなく、「どんな人間になりたいか」を考えることが、自分らしい人生につながる。そのためには、自己肯定感を育み、自分らしさを認めてくれる人や環境との出会いを大切にすることが重要であるとのことでした。

さらに、多様な生き方を認め合い、子どもたちの自己肯定感や好奇心を育む環境を整えることは大人の責任であり、互いに支え合える社会を築いていくことが、これからますます重要になるとの考えが示されました。

最後に、「懐深く愛をもち、視座高く視野を広げ、ブレない自分軸を持ち、強くしなやかに生きてほしい。」とのメッセージが語られました。

自らの健康は、自ら守る　　銚子市（岩瀬賢氏・金尾記子）

今回は銚子市食生活健康推進協議会を代表して会長の佐久間節子さんにお話を伺いました。

昭和５７年に母子保健推進員６名から始まったこの組織は現在会員５８人（うち男性４人）まで増え「自らの健康は、自ら守る」をスローガンに日々活動されています。

市主催の研修会や栄養教室に参加することで知識を深めることはもちろん、千葉科学大学生と協働しフレイル予防を呼び掛ける「まちの保健室」の開催、小学生を対象とした食育活動の実施、銚子テレビの番組「レッツ！食生活健康レシピ」での調理放映など、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、さまざまな方法で健康に関する啓発活動を行っています。

銚子市食生活健康推進協議会の皆さん

しかしながら、市の人口と同様に同協議会も会員が高齢化し、減少傾向にあるようで「家庭から地域へ健康の輪を広げていくためにも会員の確保に努めたい。」と佐久間さんは前向きに語られていました。市民の皆さんが少しでも健康に長生きできるよう、同協議会には今後も活発な啓発活動を期待したいです。

※フレイル予防とは、年齢と共に心や体の働きが弱くなった状態を防ぎ、健康な状態に戻したり進行を遅らせたりすること

日常にささやかなスパイスを――カレー店を営む千葉実紗さん　　匝瑳市（男女共同参画担当）

千葉実紗さん（店舗情報は Instagram ↑から）

匝瑳市の海近くに新しくできたカレー＆チャイのお店「紗茶屋（ささや） spice」。心地よい音楽が流れる店内は、木材や照明の温もりに満ち、日々の喧噪も忘れられるよう――。千葉実紗さんは、約２年半のキッチンカー経営を経て、今年春にこのお店をオープンしました。

コンセプトは「日常にささやかなスパイスを」。日々忙しい方や遠出が難しい子育て世帯などが、都会まで行かなくても非日常を味わえる場所にしたい。その一心で、照明や音楽にこだわり、木材を使用した DIY で、温かみのあるおしゃれな空間を作り上げました。

料理にもこだわりが。「せっかく提供するなら、罪悪感なく安心して毎日食べてもらえるものがいい。」と試行錯誤し、少量の油と野菜、塩、スパイスで作るヘルシーなカレーに。具材の組み合わせでさまざまなメニューになるため、毎回違った味を楽しめます。また、小さな子どもでも食べられるよう、辛いスパイスは不使用。「家や給食でよく食事を残してしまうお子さんが、『ここのカレーなら完食できた。』と笑顔を見せてくれたことが印象に残っています。」とはにかみます。

老若男女、誰でも心地よく過ごせる場所を目指したいと話す実紗さん。「これからは、お腹を満たすだけでなく、心も満たして帰っていただけるお店にしていきたいです。」と、まっすぐな眼差しで今後の展望を語ってくれました。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内６つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

いつまでも身体を動かして遊べる保育士に　九十九里町（若山千加子）

九十九里町で保育士として働く酒井紀彰さんにお話を伺いました。

高校時代は別の進路を考えていたという酒井さん。進路について考える中で、幼い頃に通っていた保育園で、友達がガラスにぶつかってケガをした際、先生たちがテキパキと対応する姿を思い出しました。「先生ってかっこいい。」と感じた経験が心に残っており、「自分もこんな保育士になりたい。」と思ったことが、保育士を目指すきっかけになったそうです。

保育士　酒井紀彰さん

子どもたちが悩みを打ち明けてくれたことや、トラブルを解決した後に手紙を渡してくれたこと、卒園式での感動など、日々のさまざまな出来事が仕事の喜びにつながっていると語ってくれました。

「いつまでも身体を動かして遊べる保育士でありたい。」という酒井さん。明るく柔らかな人柄で、子どもたちや保護者からも親しまれています。これからも子どもたちの成長を見守りながら、地域の保育を支えていくことでしょう。

輝く毎日を応援　～SOSA 株式会社～　横芝光町（伊藤清美・溝口澄子）

ＳＯＳＡ株式会社は平成５年に住宅の解体工事業を主として創業し、「お客様に一番に選ばれる企業を目指す」をビジョンとして掲げ、常に挑戦と成長を続けることで高い信頼を得ている企業です。

また、女性の登用・職域拡大や仕事と生活の両立支援に積極的に取り組んでおり、千葉県内の事業所を称える千葉県男女共同参画推進事業所表彰において令和２年度に奨励賞を受賞しています。実際に訪問した際、事務所内が非常に整頓されており、生産性がよく気持ちよく働ける環境だと感じました。女性職員２名に取材させていただきましたが、フレックスタイム制の導入、始業開始はみんなで社内の清掃から、個を尊重した私服着用で勤務など、さまざまな取り組みが社員の意識を高めることにつながっていると話されていました。整理整頓されたデスク周りや充実した福利厚生の話を伺い、社員の方が楽しみながらも、会社と共に成長していきたいという気持ちがストレートに伝わってきました。

SOSA 株式会社　秋田さん　平山さん

地域資源が宝　芝山町（土井正裕）

「地域資源が宝物に見えた。」と語る平山さん。今回は、堆肥製造をされている町内企業、株式会社平山堆肥の取締役である、平山祥子さんを取材しました。

元々、切り花の装飾関係のお仕事をされていた平山さんは、会社の代替わりの折、実兄が継いだのをきっかけに、この業界に足を踏み入れたとお話してくださいました。

この地域には、食品残渣（コーヒー粕等）や廃棄物、馬や牛といった動物の排泄物など、一般的にはごみとされる多くの資源が集まります。それらは全て堆肥に生まれ変わり、またその全てが平山さんにとっては宝物に見えていました。地域資源を活かす技術、そこから生まれる堆肥には、農業、畜産、養殖や干潟の土壌改善にも活用でき、環境改善につながるこれらの可能性の全てにやりがいをもたれているとのことでした。

この業界で実際に現場で作業をする女性は少ないけれど、この仕事には、「男性だから」、「女性だから」というような棲み分けは無いと、力強く断言されました。その立ち振る舞いには、一人の生産者としてのプロフェッショナリズムを感じさせられました。

今後のますますのご活躍を期待しております。

株式会社平山堆肥　平山祥子さん

地域全体を児童館みたいにするぞ…“まーちーず”　旭市（伊藤浩子・藤野祐子）

地域に子どもの居場所をたくさんつくりたい。信頼できる大人、安心できる居場所、自分らしく楽しく過ごせる時間、自分自身の夢、目指したい未来を見つけて欲しいという願いをもって活動している団体“まーちーず”を取材しました。

現在は趣旨に共感した５人のメンバーを中心として、４月より運営されています。１か月に１回第３日曜日に自主イベントを企画し、これまでに、「手作りシャボン玉で遊ぼう」「親子でLet's ダンス」「スライム作り」等の活動を実施しました。その他の団体等ともコラボし、ベビーキッズ用品交換会、ラピケアクリニック健康相談会、特別養護老人ホームコラボ「絵本読み聞かせ」等の実践を重ね、地域交流の場・体験の機会拡充のニーズを感じながら活動の輪を広げているようです。

まーちーずのみなさん

一般の参加者からも「楽しそうなわが子の姿、普段見られないような顔も見られてうれしい。」と喜びの声が届いているそうです。「次のイベントを心待ちにしてくださっている方々のためにも定期的に継続していきたい。」とすてきな笑顔で話してくれました。

地域で助け合い子育てをする“まーちーず”の実行力、チーム力は人へのやさしさから来ているのですね。今後も活動を応援していきたいと思います。

地域を笑顔でつなぐ「昆陽ファーム」の挑戦　大網白里市（澤畑道子・河野稔子）

「大網白里市の特産品をつくり、地域を元気にしたい。」そんな熱い思いを胸に３人が、商工会での出会いをきっかけに立ち上げたのが昆陽ファームです。約５年前、キッチンカーでの販売をきっかけに農業を始め、現在はサツマイモの栽培から加工・販売までを一貫して行う６次産業に挑戦しています。

株式会社昆陽ファーム　光川文規さん　木内結子さん　今野智さん

栽培では、肥料や薬剤をできるだけ抑え、収穫後の熟成にもこだわり、「甘くて味の濃いサツマイモ」を追求。焼き芋やシュークリーム、プリンなどの商品は、「また買いに来ました。」「ここでしか味わえない。」と多くの人に親しまれています。

新規就農当初は機械も知識もない状態からの出発でしたが、家族や地域の仲間とのつながりに支えられ、一歩ずつ歩みを重ねてきました。昆陽ファームでは、性別にとらわれず、それぞれの得意分野を生かし、お互いを尊重しながら力を合わせて挑戦を続けています。「地域の農業を未来へつなぎ、後継者不足という課題の解決にも貢献したい。」そう熱く語る３人の言葉からは、地域への深い愛情と強い使命感が伝わってきます。

人と人とのつながりを育み、多くの人の笑顔を生み、地域に新しい価値を創り出す昆陽ファーム。今日も畑で汗を流す３人の輝く笑顔は、大網白里市の未来を明るく照らしています。

★株式会社「昆陽ファーム」という名称の由来

江戸時代に九十九里で甘藷栽培を行い、サツマイモを広めた青木昆陽先生への敬意と、サツマイモのように多くの人に愛される店でありたいという願いが込められています。

感想をお寄せ下さい

『海匝・山武 男女共同参画だより』をお手にとっていただき、ありがとうございました。
右の２次元コード「ちば電子申請サービス」にて、ご感想をいただければ幸いです。

＜発　行＞ 千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）
＜事務局＞ 千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町 2-1-12
TEL:043-420-8411　FAX:043-420-8581